

ふれあい せい



発行

濟生会西条病院

2011年 秋号 第53号

西条市朔日市269-1

TEL(0897)55-5100



ごあいさつ

副院長・外科部長 石井 博

循環器科に常勤医師が
着任しました!

循環器科 医長 金子 伸吾

永年勤続表彰

部署紹介

ニューフェイス



ごあいさつ

副院長 外科部長 石井 博



副院長 外科部長
石井 博

未曾有の東日本大震災の発生後7ヶ月が経過しました。直下型の阪神大震災と比べて津波が被害の主体でした。30年以内には東海、東南海、南海地震が発生する可能性が非常に高いと言われています。ユーラシアプレートとフィリピンプレートの歪みから発生する地震であり、マグニチュード8を超える強度となり、太平洋沿岸には10mを超える大津波、瀬戸内海においても3m程度の津波が発生するとともに長周期地震動型であるために遠い場所でも震度が大きく高層ビルなども壊滅的被害を受ける可能性があります。残念ながら地震の予知は困難であり、広範囲の地震であるために安全な避難場所もわかりません。安全と水はタダと言われる国は日本と言われるために国民は安心しているのですが、まさに日本は地震や火山が発生する土地の上であり、本来は十分な危機意識を持たないといけません。西条市内の4病院、西条市医師会、西条市および西条消防本部からなる「西条市救急業務懇話会」内に「災害プロジェクトチーム」が発足後3年経過し、災害が発生した際の医療体制の確保について検討しております。当院でもバスの事故のような多数傷病者発生時から職員の身の安全の確保がされない状態である最も規模の大きい災害発生時まで皆さんの安全の確保と医療体制を整備するマニュアルを作成中です。災害医療が通常の医療と異なるところは人的および物的資源のない中で、如何に多くの人命を救うことができるか?が重要となります。何事もマニュアルや訓練以上のことを実際に活動することは困難です。最終的には臨機応変な対応が図られるのですが、発生時の体制を十分に整えることができる準備を行って参ります。この地域に住まれている皆さんも非常時の対応を自分なりに対策をたてておいていただければと存じます。

生時から職員の身の安全の確保がされない状態である最も規模の大きい災害発生時まで皆さんの安全の確保と医療体制を整備するマニュアルを作成中です。災害医療が通常の医療と異なるところは人的および物的資源のない中で、如何に多くの人命を救うことができるか?が重要となります。何事もマニュアルや訓練以上のことを実際に活動することは困難です。最終的には臨機応変な対応が図られるのですが、発生時の体制を十分に整えることができる準備を行って参ります。この地域に住まれている皆さんも非常時の対応を自分なりに対策をたてておいていただければと存じます。

循環器科に常勤医師が着任しました！



9月1日より、循環器科の金子伸吾医師が、当院の常勤医師として着任しました。長期に渡る循環器科常勤医師不在により、地域のみなさまにはご不便・ご心配をおかけしてきましたが、この11月には新たな検査機器を整備し、新たな体制で循環器科診療を開始します。詳細については、循環器科・金子伸吾医長よりご挨拶を兼ねて説明させていただきます。

済生会西条病院 循環器診療について

循環器科 医長 金子 伸吾

皆さん、初めまして、2011年9月1日より当院循環器科医として赴任しました金子伸吾と申します。野々市出身、西条高校、愛媛大学医学部卒業後、東京で約10年間の修行を積み戻って参りました。西条圏における虚血性心疾患、閉塞性動脈硬化症、不整脈医療の一助となれればと思っております。よろしくお願いいたします。

これまでの循環器科といえば、高血圧や心不全を中心とした「内科」としてのイメージが強いと思いますが、私は「虚血性心疾患」「閉塞性動脈硬化症」に対するカテーテル治療、不整脈に対するペースメーカー手術、カテーテル手術を専門分野としており、むしろ「外科」に近い診療および治療を行っております。

<対象となる病気について>

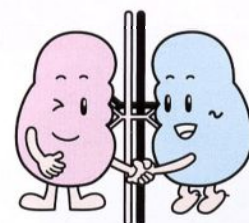
① 動脈硬化性疾患（血管疾患）

多い病気は心筋梗塞、狭心症などの「虚血性心疾患」です。心臓は周りを囲むわずか3本の細い動脈＝冠動脈で動いています。この冠動脈が動脈硬化で細くなったり、詰まったりすることが病気の原因です。細くなれば狭心症、完全に詰まると心筋梗塞となります。

狭心症の主な症状は「動いたときに胸が重苦しく、押されるように苦しくなる、少し休むと良くなる。症状は5分以内」というものが典型的ですが、夜間や明け方に血管がけいれんすることで起きるタイプのものもあります。

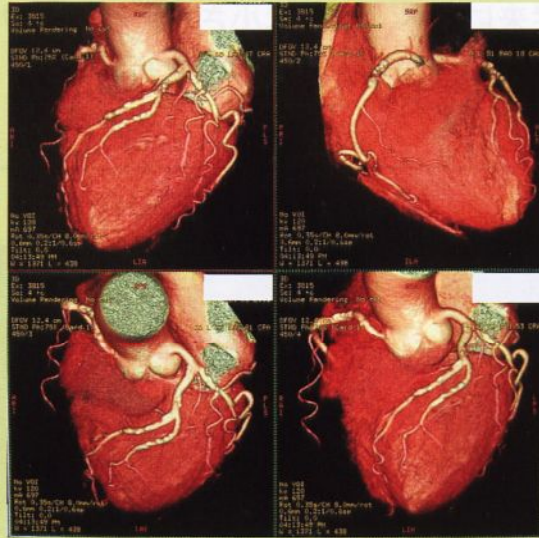
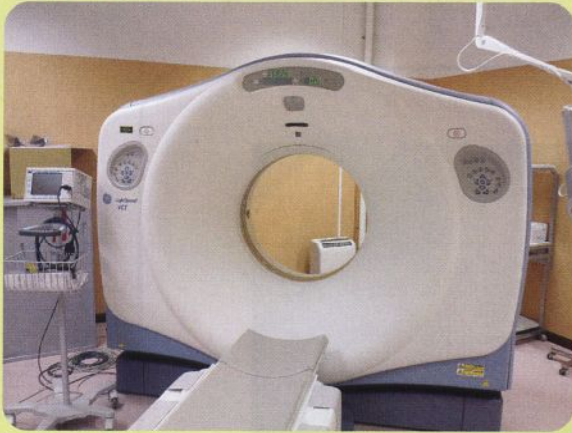
急性心筋梗塞は「冷汗を伴った強い胸の圧迫感および痛みが30分以上続く」とおっしゃる患者さんが多い印象です。しばしば命に関わる不整脈を起こすため、発症した場合『2人に1人しか病院までたどり着けない』とされるほか、心破裂、急性心不全、慢性心不全など様々な合併症を起こします。特に糖尿病をお持ちの方、65歳以上の方では、狭心症の典型的な症状が出る前に突然、心筋梗塞となったり、知らず知らずのうちに心筋梗塞を起こしていることも認められます。心疾患は日本人の死因の第2位、なかでも心筋梗塞は致死率80%の恐ろしい病気です。

まずは、禁煙、食事・運動療法、ストレスの軽減、生活習慣病（糖尿病・肥満・高血圧・高脂血症）のコントロールが大切ですが、大切なのは早めに病院にかかり検査を受けることです。心筋梗塞になる前、狭心症の段階で治療を行いましょう。心電図やエコーで異常がわからなくとも、病気は静かに進行しています。



当院では64列マルチスライスCTを導入しております。症状や検診で狭心症が疑われたらCT検査をお勧めいたします。病変が見つかった場合にはカテーテル検査が必要となりますが、基本的には手首から行います。

▼GE製 Lightspeed VCT64▼

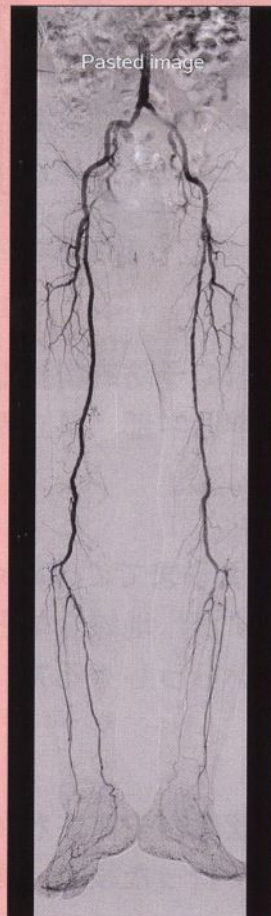


▼GE製 Innova 3131IQ 血管造影装置▼

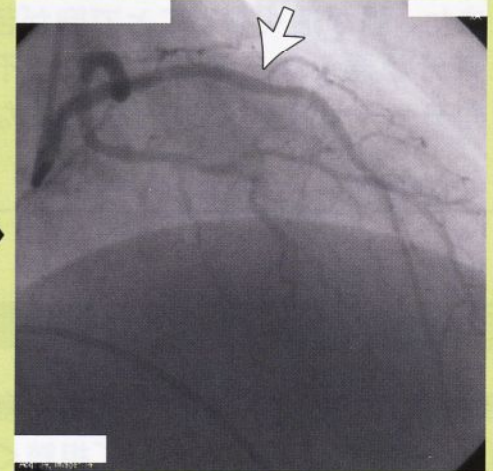
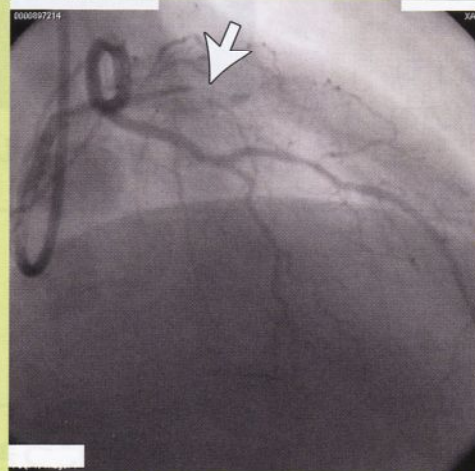


▲当院で撮影した冠動脈CT画像▲

今回導入された最新のGE社製フラットパネル2方向同時撮影装置により、手技時間、造影剤、放射線被曝量は従来の30%程度にまで軽減できました。



◀全下肢同時血管造影▶

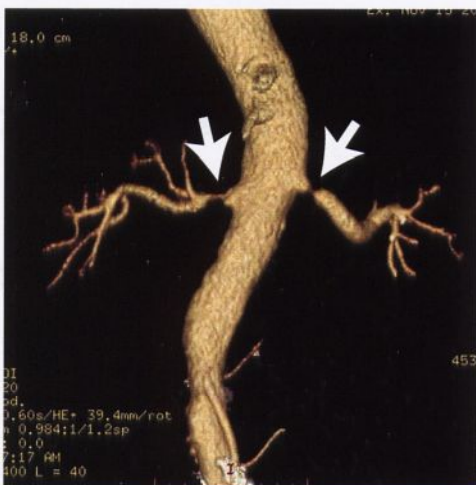


▲左冠動脈にの狭心症に対するステント治療：閉塞している血管にワイヤーを通し、ステントを留置しています▲

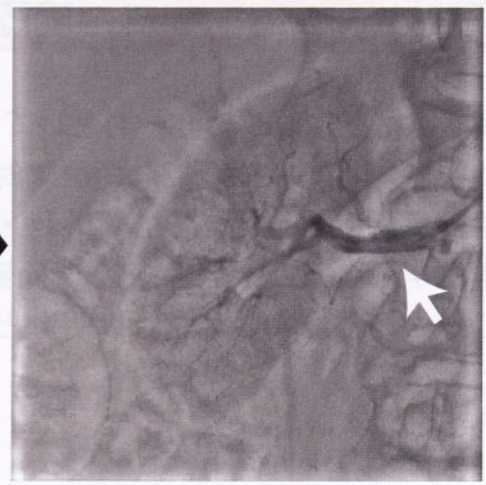
最近急増している「閉塞性動脈硬化症」の治療も可能となりました。「歩いていると足が疲れる、少し休むとよくなる、冬になると足の色が紫色になる」というのが典型的な初発症状です。重症例になると、傷がなかなか治らない、潰瘍ができるという症状が出てきます。例えば、足の「狭心症」「心筋梗塞」という表現がわかりやすいかもしれません。検査はまず、ABI（血圧脈波測定）、SPP、エコーを。疑われたらCT、カテーテルを行います。腰から足先まで診断と治療が可能です。（近隣では当院の装置でのみ可能な検査です）



腎動脈狭窄症に対しても治療が可能です。心不全を繰り返す、血圧を下げる薬を数種類飲んでいても血圧が下がらない、などの症状がある方は是非ご相談ください。エコー及びCT検査を行い、対象病変があれば、ステント治療を行います。



▲腎動脈狭窄症の3DCT▲

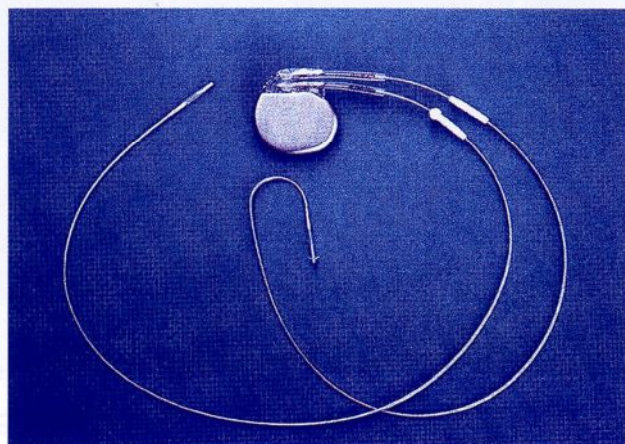


▲左腎動脈狭窄に対するステント治療 手首から行っています▲

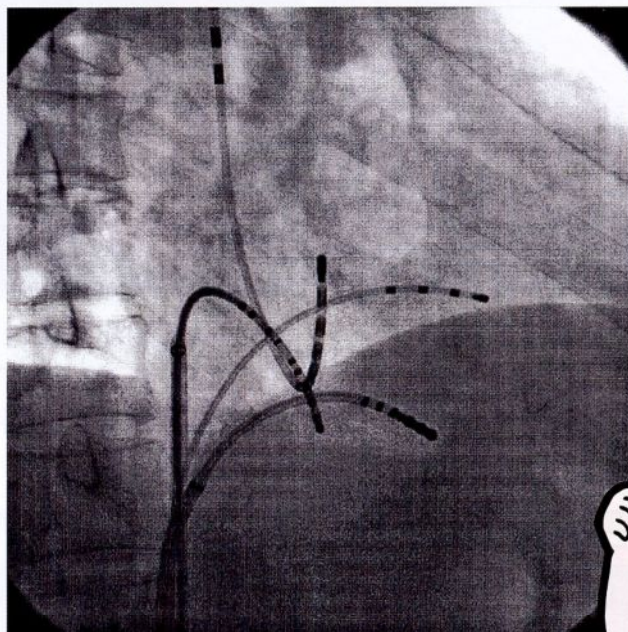
頸動脈のステント治療については脳神経外科と連携して行います。ご相談ください。

② 不整脈

脈が遅くなることで疲れやすい、急に目の前が暗くなる、めまいがする、心不全となる、このような症状がある方はペースメーカー治療の適用となります。従来に比べ、本体は小さく、バッテリー寿命は長く、電子機器類からの影響も少なくなりました。手術時間は1時間弱、入院1週間程度、局所麻酔で行います。術後の安静時間が短く、心臓機能を落とすににくい「中隔ペーシング」を採用しております。



また、脈が速くなることで胸が苦しくなる、気分が悪くなる病気「頻脈性不整脈」もカテーテル治療ができる時代になりました。



▲カテーテルによる不整脈治療▲



③ その他血管疾患および特殊疾患

深部静脈血栓症からくる「肺血栓塞栓症」に対する下大静脈フィルター留置術は外科手術前の予防的留置などにつきましても対応いたします。ご相談ください。特殊疾患、重症症例につきましては、愛媛大学医学部、県立新居浜病院等と連携した診療を行っております。

カテーテル室は11月1日にオープンしました。医療機関の方で見学をご希望の方は、お気軽に金子までご連絡ください。また、医師の募集も行っております。愛媛大学医学部に医師の派遣を強くお願いしておりますが、地域全体として医師不足が進行しており、困難を極めております。知人あるいは親族に医師あるいは医学生がいらっしゃる方、連絡をお待ちしております。西条地域の医療を守るため、よろしくお願いいたします。

また、当院では積極的に地域医療連携を行っております。専門検査・治療が一旦終了し、状態が安定されている患者さんはご自宅近くの先生方に紹介させていただきます。よろしくお願いいたします。当院で行った検査、画像などは必ずお渡し致します。

循環器科宛の紹介状も医療連携室、ホームページ上に準備しております。ご利用ください。

外来日はホームページでご確認ください。

*外来受診は可能な限り紹介予約としてください。受診時、お薬手帳、紹介状、検査データなどを必ずお持ちください。

*急患につきましては、可能な範囲で対処させていただきます。

*主な連携病院（循環器科・心臓外科・血管外科）

愛媛大学医学部 県立新居浜病院 西条中央病院 西条市民病院 愛媛県立中央病院 松山赤十字病院 倉敷中央病院
その他必要な場合は東京、大阪などご希望の病院に紹介可能です。

2011年10月18日

循環器科医長 金子伸吾

永年勤続表彰

30年勤続表彰を受賞して… 画像センターの軌跡

先日広報担当の方から『ふれあいさいせい』の原稿依頼がありました。「何について書けばいいの？」と聞くと「何でもいいです」と言われました。しかし、昨日の食事に何を食べたか？と聞かれても思い出すのに時間がかかる小生です。とりあえず30年を振り返って書いてみます。記憶違いもあると思いますが、どうかご了承ください。

済生会病院に、昭和56年4月に入职し30年という月日が経ちました。

旧病院時代（現・弁財天公園）の放射線科は、放射線技師2名・助手1名・事務員1名の4名で構成されており、一般撮影・CT・透視撮影などを主に実施していました。

いまの病院に移転後は、超電導磁気共鳴診断装置（以下MRI）・核医学診断装置など新機器が導入され、放射線技師も増員されました。現在では放射線科医師1名・放射線技師12名・看護師3名・事務員2名で放射線業務を行っています。

当時からの撮影機器を少し紹介させていただきます。

昭和57年に全身用CT装置を導入、第1世代の機器ですので、1スライス撮影するのに9秒（現在では0.4秒）程かかり、非常に根気のいる撮影でした。

昭和63年には愛媛大学にもまだ入っておらず東・中予地方で初めて済生会西条病院に導入！というキャッチフレーズでSANYOのMRI装置SNR-PMII（0.15T永久磁石）を導入。TVでニュース報道されたりもしました。（金額もすごかった！？）しかしこの機器は全国でも数台しか売れず、SANYOは磁気共鳴診断装置から撤退してしまいました。

平成になるとオランダに拠点をおくPHILIPS社が威力を発揮し、当院も平成3年に外科用X線テレビ装置（BV25N特型）を導入。平成7年にはMRI装置（GYROSCANNT5）、乳房X線撮影装置（DIAGNOST3000）を更新。さらに平成8年には血管連続撮影装置（インテグリスV3000）を更新しました。

次々と外資系の機械が整備され戸惑うことが多々ありました。今日においてCT検査はルーチンになっているので、救急患者においては1番に検査することが多くなっています。既存のCT装置は、平成元年に更新して以来現在、4代目のCTが活躍しています。

平成15年頃より、血管造影撮影装置を皮切りにアメリカGE社製の機器の導入が増え幅広い検査に対応することができています。

平成19年には南棟増築に伴い、当院の売りでもあるPET-CT・リニアック（放射線治療機器）を新設しました。PET-CTは県内では中予に2施設、東予では初めて導入された機種です。現在でも愛媛県下には数施設でしか稼働していません。

時代の流れと共に撮影機器も進化してきました。この間多くの先生方に出会い、別れも経験しましたが多くの知識・技術等を指導してくださいました。今日小生がここに居られるのも諸先輩方のおかげだと思います。

済生会病院の理念でもある「救療済生」の精神に基づき、今後画像センタースタッフ一同、更なる飛躍に努力していきたいと思っております。



放射線科技師長
山内 務

30年表彰

放射線技師長・山内 務
準看護師・薦田 育子

20年表彰

看護師・宮崎百合美
看護師・難波江早美
看護師・高橋 順子
看護師・浦野 妙子
看護師・丹 直子
看護師・加藤裕見子
臨床検査技師・吉田 香里

10年表彰

看護師・阿蘇 京子
看護師・秋山すみえ
看護師・塩崎まり子
言語聴覚士・山内 和子
作業療法士・水口 孝二
管理栄養士・松永 尚子



部署紹介

検診センター

検診センターは、平成14年4月に開設され10年が経とうとしています。初年度の健診者は、1200名ほどでしたが、平成22年度には約3900名のご利用がありました。これも外来を含む各部門のスタッフの協力のおかげです。

当検診センターでは、人間ドック・生活習慣病予防健診・PET-CTがん検診などを予約制にて実施しています。近年人間ドックをご利用し、オプション検査として頭部MRI検査・胸部CT検査を追加される方が増えています。また、乳がん検診・子宮がん検診（子宮頸部細胞診）も検診センターにて実施できますので是非ご利用下さい。家族や知り合いの方へも健診をお勧め下さい。

「笑顔で・明るく・丁寧に」をモットーに検診センタースタッフ一同これからもがんばります！！

